

THE BEST PARTNER

～「ゆうえんち」から学んだ大切なこと～

【応募区分：高校】

チームID：SL900107

学 校 名：大分県立情報科学高等学校

チーム名：情科ファイナンシャルリサーチA

リーダー：伊 東 和 樹（3年）

メンバー：西 郷 沙也加（3年）・矢 野 鈴 鹿（3年）

指導教官：衛 藤 準（商業科教諭）

目次

I	テーマ設定の理由	P1～
II	銘柄選出の視点とスクリーニング、 ポートフォリオ完成	P3～
III	個別銘柄分析とグローバル投資 (資本提携) マップ	P9～
IV	ポートフォリオの客観分析	P16～
V	ポートフォリオの分析と総括	P20～
VI	ストックリーグのまとめ	P21～

ファンド名		‘09 相棒ファンド ver. 1				
	業 種 名	銘柄コード	銘 柄 名	市場名	投資金額	割合
I	銀行業	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	東証1部	250,000	5%
	銀行業	8316	三井住友フィナンシャルグループ	東証1部	250,000	5%
	証券、商品先物取引業	8604	野村ホールディングス	東証1部	300,000	6%
II	鉄鋼	5401	新日本製鐵	東証1部	300,000	6%
	金属製品	3436	SUMCO	東証1部	200,000	4%
	鉱業	1605	国際石油開発帝石	東証1部	300,000	6%
	卸売業	8031	三井物産	東証1部	200,000	4%
	医薬品	4502	武田薬品工業	東証1部	250,000	5%
	医薬品	4503	アステラス製薬	東証1部	300,000	6%
	食料品	2914	日本たばこ産業	東証1部	250,000	5%
	食料品	2503	キリンホールディングス	東証1部	250,000	5%
	情報・通信業	4704	トレンドマイクロ	東証1部	200,000	4%
	情報・通信業	9984	ソフトバンク	東証1部	200,000	4%
III	電気機器	7751	キヤノン	東証1部	350,000	7%
	電気機器	6752	パナソニック	東証1部	200,000	4%
	電気機器	6594	日本電産	東証1部	200,000	4%
	輸送用機器	7267	本田技研工業	東証1部	350,000	7%
	海運業	9101	日本郵船	東証1部	200,000	4%
	陸運業	9062	日本通運	東証1部	200,000	4%
	その他製造	7974	任天堂	東証1部	250,000	5%
合計投資金額					5,000,000	100%

I テーマ設定の理由

2008年3月、「セントレジャー城島高原パーク」が誕生した。これは、私たちの地元最大の「ゆうえんち」城島（キジマ）の再出発である。「城島（キジマ）」は、1963年に開業、全国的にも有名な別府と湯布院両温泉の間に位置し、遊園地やゴルフ場、ホテルまで兼ね備えた、日本最大級のレジャー施設だ。県内の人なら子どもから大人まで、何度も行って遊んだことがあるだろう。私たちも1年前にはバス遠足で訪れ、大いに楽しんだ。県内外の人達にそれぞれの年代で沢山の大切な思い出を作ってくれた場所でもある。しかし、06年9月、約20年間経営資本であった後樂園スタジアム（現東京ドーム）グループが売却、撤退を発表した。県内外に大きな衝撃が走った。その後、08年3月27日、「セントレジャー城島高原パーク」としてリニューアルオープンし、多くの人々が来場し始めた。【資料2参照】

ただ、『後樂園』という会社は分かるけど、『セントレジャー』って何か？」は、私たち3人も誰も知らなかった。多分、他の友達も殆ど知らないまま、相変わらず遊びに行き続けているのではないか。「もしそうなら、かなりおかしい事だね」株式（自己資本）について学ぶにあたって、地元のレジャー産業の“白馬の騎士”ともいえる、「セントレジャー」を調べてみよう！というのが出発点だった。

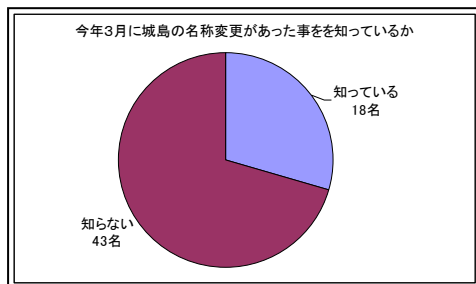
「セントレジャー」は、米国の超有名金融機関「モルガン・スタンレー」の日本関連会社。何と、私たちのかけがえのない「ゆうえんち」はアメリカから提供されているのだということを初めて知った。それまでの、「外資からの買収＝“ハゲタカ”＝“何か悪い？”」というイメージは大きく変わった。3月からセントレジャーの経営になった途端、アトラクションやイベントが活性化し、魅力あるレジャー施設として、そこには沢山の笑顔や幸せの光景が満ちあふれている。外資に買収されることは、決して悪いことだけではないという事を身近に実感した。

その後、本校商業科3年生全61名にアンケート調査し、以下の驚きの事実を知った。【資料1参照】

【資料1】「セントレジャー城島高原パーク」についてのアンケート結果

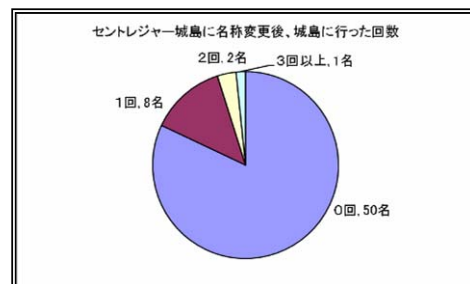
（対象：本校商業科3年生61名回答結果 回収率100% 08年9月実施）

Q1 城島の名称変更を知っていますか？



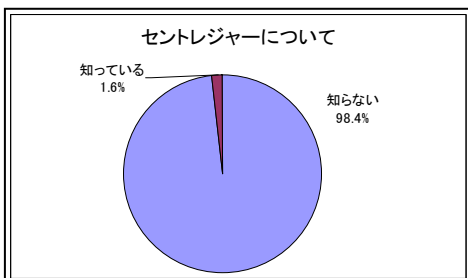
（図1-1）

Q2 今年3月以降に城島に何回行きましたか？



（図1-2）

Q3 セントレジャーについて知っていますか？



（図1-3）

Q4 Q3で知っている人へ、具体的に説明して下さい。

○大きな会社が買い取ってそこがつけた名前。
自分の会社名をそのまま付けるといやらしいから。

3月以降、「セントレジャー城島」へ名称が変更されたことすら知らない人が7割以上。更に、2割の生徒達が遊びに行っているにも関わらず、「セントレジャー」という会社について、簡単にでも説明できたのは1人しかいなかった。誰かに助けてもらった時は、その人の名前くらい聞くものだが、その人の名前すら知らない。聞こうともしない。危機だったことも知らずに、その恩恵だけを楽しんでいる。

実は日本の一地方都市の活性化すら、外資の恩恵の下にあり、その中で豊かな暮らしができています。しかし、私たちはそのことについてあまりに無知であり、知ろうともしていなかったのだ。国境を越え、グローバルな視点から、資本における真の“THE BEST PARTNER（相棒）”を探し、世界の豊かな生活に互いに貢献する投資を考え、今回のテーマを設定した。

【資料2】 城島(キジマ)「ゆうえんち」の歴史(資本の変遷)

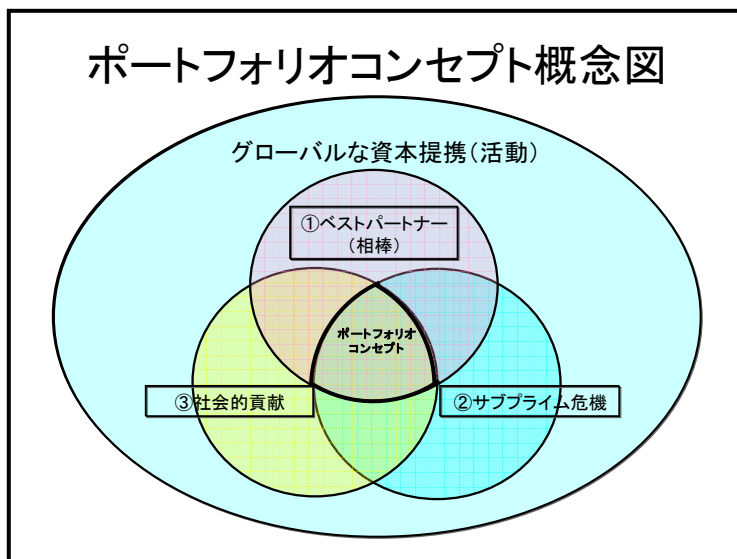
●所在地: 大分県別府市城島高原123番地

1963 年	ゴーカート（1 周 200m）がオープン。
1967 年 3 月	関西汽船株式会社がキジマモートピアランド開業。日本一長い（当時）ゴーカートがオープン。
1970 年	伊藤忠商事株式会社に営業譲渡。社名を西日本レジャー開発株式会社に変更。
1982 年	城島高原ファミリーパークに名称変更。
1984 年	城島高原アイススケート場（屋外）オープン。
1987 年	後樂園スタジアム（現東京ドーム）に営業譲渡。社名を株式会社西日本後樂園に変更。
1992 年	城島後樂園ゆうえんちに名称変更。全面リニューアルし、日本初の木製コースター「ジュピター」等を導入。
2006 年 9 月	東京ドームが別府市の城島後樂園を含む全国6カ所のゴルフ・リゾート事業の 売却撤退を発表。
2007 年 5 月	モルガン・スタンレーに営業譲渡 運営は関連会社であるセントレジャー・グループが担当。
2007 年 6 月	新しく設立されたセントレジャー・オペレーションズの傘下になる。
2008 年 3 月 27 日	名称を変更し、 セントレジャー城島高原パーク としてリニューアルオープンし、新規アトラクションを一部導入。
以降～	次々と新アトラクションやイベント開催等で活性化し、盛況。08年12月には、日本発の新感覚アトラクション「キッズドライビングスクール（仮称）」を2009年3月20日に導入することを発表した。

II 銘柄選出の視点とスクリーニング、ポートフォリオ完成

1. ポートフォリオのコンセプト

今回のポートフォリオコンセプトとなるのは、グローバルな資本提携（活動）を視野に入れた、「①ベストパートナー（相棒）を探し出すこと」、「②サブプライム不況への対応」、「③社会的貢献の重要性」の3つの融合点であることを明確にした。



（図2-1）ポートフォリオコンセプト概念図

2. スクリーニングの流れ（図2-2）

STEP 1 まず、上場企業の中から、外国人の持ち株比率を調査して、外国人が既によく知っている企業【S、A ランク（39%以上）と評価】、外国人がある程度知っている企業【B ランク】、未だ十分に知られていない企業【C ランク】に格付けした。その後、今回のテーマから3つの柱を決め、更に総合的な観点から、どの業種を選択するかを検討し、ア.金融、イ.鉱業・鉄鋼・金属製品、ウ.化学（医薬品）、エ.食品、オ.IT、カ.電気機器、キ.輸送機器、ク.運輸、ケ.その他製造の9業種に投資対象を絞り込むことにした。

（1）ポートフォリオの3本柱とその業種 **STEP 2**・**STEP 3**

①第1の柱・・・ア.金融（1業種）【本ポートフォリオの中心的柱】

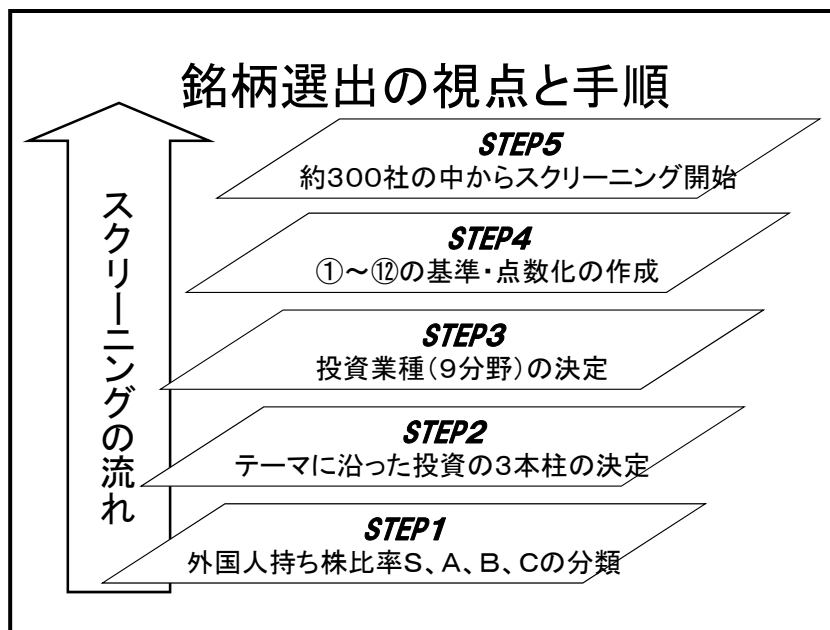
サブプライム問題の顕在化以降、その中心として最も株価変動が大きくリスクも高い分野であるが、金融は人間の体で言えば“心臓”だ。強く安定的でなければ、経済の回復や発展もしない。金融システムが揺らいでいる今だからこそ、銀行（間接金融）や証券会社（直接金融）に公的資金注入だけでなく、民間の資金も積極的に投資し、強化していくことがとても重要だと考えた。特に、真のベストパートナーの関係を築くためには、相手が困っている時に手を差し伸べ、共栄への行動が重要だと考えた。

②第2の柱・・・イ.鉱業・鉄鋼・金属製品、ウ.化学（医薬品）、エ.食品、オ.IT（4業種）

サブプライムショック（07年8月）以降の不況下においても株価下落率が低い業種を抽出し、今後もしばらく続くであろう、不況下に耐えうるものとして、第一の柱とのリスクバランスを考慮した。

③第3の柱・・・カ.電気機器、キ.輸送機器、ク.運輸、ケ.その他製造（4業種）

真の相棒を得るためには、自分の良さに自信を持ち、自分の利点を更に力強いものにし、自らも発展を遂げなければならない。その点を考慮し、他国が日本の素晴らしさを高く評価する業界の優良企業の資本を更にグローバル化し、競争力を増していける分野を投資対象とした。



(図2-2) 銘柄選出の視点と手順

3. スクリーニングの基準と点数化 STEP 4

話し合いを重ねて、以下の12項目の基準を決定し、全ての項目に5段階の基準を設けた。更に各項目には、私たちのコンセプトをできるだけ反映できるよう傾斜配点をかけ、点数化した。

特に最後の12項目目には、テーマ性&魅力を設定。5段階×10(50、40、30、20、10)の最大50点分を加え、250点満点で評価することにした。例えば、①～⑪までの総得点は高いが、日本でしか事業展開していない会社はいくら良くても、投資対象から外れるようにし、今回の投資コンセプトを明確にすることに決定した。

①～⑪までの合計得点順で並べ替え、投資業種ごと上位3社を抜き出し、テーマと合致した魅力的な事業展開や事業計画があるかを会社からの送付資料並びに公式HPから比較・検討し、最後に⑫の50点分を追加して、総合評価点(合計点)とした。

また、現在のような不況下では自己資本が強くなければリスクが大きいと判断し、利益が出ていても資本金の低い企業やベンチャー企業への投資はせず、資本金の大きい企業のみに限定して投資することとした。

(1) スクリーニングの基準

①業 績

●基準とした指標・・・当期純利益と売上高

5点	3年間で増収増益
4点	過去2年間は増収増益だけど今年は減益
3点	この2年間増収減益または減収増益
2点	直近3年間でともに減益
1点	直近2年間でともに減収減益

②割安感のある企業

●基準とした指標・・・ア. PER、イ. PBR、ウ. 営業利益の前期と後期の伸び率

(ア) PER

5点	4よりも低い(10%以下)
4点	平均より10%低い(10～15%まで)
3点	業種別PERの平均が±5%差まで(20%が平均なら15～25%まで)
2点	平均より15%+まで差がある(25～40%まで)
1点	2以上プラスである(40%以上)

(イ) PBR

5点	0.7～0.3
4点	0.7～1.0
3点	1.0～1.5
2点	1.5～2.0
1点	2.0～3.0 (3.0より上は0点)

(ウ) 営業利益の前期と後期の伸び率 (サブプライム 下ぶれ予測)

5点	10%以上
4点	5%～10%
3点	-5%～5%
2点	-15%～-5%
1点	-30%～-15% (-30%より下は0点)

③安全性のある企業

●基準とした指標・・・株主資本比率 (自己資本比率)

5点	60%以上
4点	50%～60%
3点	30%～50%
2点	20%～30%
1点	20%以下

④成長の見込める企業

●基準とした指標・・・ア. 売上高営業利益率、イ. 自己資本伸び率

(ア) 売上高営業利益率

5点	10%以上
4点	6%～10%
3点	4%～6%
2点	2%～4%
1点	0.1%～2%

(イ) 自己資本伸び率

5点	5以上
4点	3～5
3点	1～3
2点	0.1～1
1点	0～0.1

⑤効率性の良い企業

●基準とした指標・・・ア. ROE、イ. 資本回転率

(ア) ROE

5点	15%以上
4点	10%以上
3点	5%以上
2点	3%以上
1点	3%未満

(イ) 資本回転率

5点	1.5以上
4点	1.0～1.5
3点	0.7～1.0
2点	0.6～0.7
1点	0.5～0.6 (0.5より下は0点)

⑥配当性向の高い企業

●基準とした指標・・・配当性向と経常利益率

- 5点 配当性向が20%以上、経常利益率10%以上
- 4点 配当性向が20%以上、経常利益率7%～10%
- 3点 配当性向が20%以上、経常利益率5%～7%
- 2点 配当性向が10%以上、配当性向が20%以上だが経常利益率が5%以下
- 1点 配当性向が2%以上（2%より下は0点）

⑦技術力の高い企業

●基準とした指標・・・四季報の設備投資

- 5点 4000以上
- 4点 2000以上
- 3点 1000以上
- 2点 500以上
- 1点 500未満

⑧研究開発に力を入れている企業

●基準とした指標・・・四季報の研究開発

- 5点 1000以上
- 4点 600～1000
- 3点 400～600
- 2点 200～400
- 1点 1～200

⑨環境に配慮している企業

●基準とした指標・・・企業のホームページや資料請求によって得た会社案内やCSR報告書等

- 5点 エコリーフ環境ラベルに認定されている。
- 4点 環境ISOを取得しかつ環境保全活動をしている。
- 3点 環境ISOを取得している or 製造をしていないが環境保全活動をしている。
- 2点 エコマーク商品を製造している。
- 1点 該当しない。

⑩CSR（企業の社会的責任）や企業理念・方針

●基準とした指標・・・ア. 目標、イ. 社員のキャリアアップを支援しているか、ウ. ネガティブインフォメーションを載せているか、エ. グローバルな経営をしているか、オ. 投資家への対応（資料請求や公式HPでの質問等への対応の評価）

（ア）目標

- 5点 大いに納得できる内容と実績がある。
- 4点 納得できる内容と実績がある。
- 3点 記載はあるが実績が充分でない。
- 2点 挨拶だけで終わっている。中身が詳しくない。
- 1点 経営者（トップマネジメント）の言葉すらない。

（イ）社員のキャリアアップを支援しているか

- 5点 社員のコミュニケーションを取り、意見を経営に反映している。
- 4点 キャリアアップの活動を積極的に支援している。
- 3点 キャリアアップの支援制度はある。
- 2点 支援が充分とは言えない。
- 1点 殆ど何もしていないと考えられる。

(ウ) ネガティブインフォメーションを載せているか

- 5点 きちんと公開し、そのことに対する取り組みと結果を詳細に公表している。また、今後の取り組みについても考えている。
- 4点 事実関係だけは載せている。
- 3点 詳細には記載されているとはいえない。
- 2点 いつ、何があったか程度の報告のみ。
- 1点 ない。

(エ) グローバルな経営をしているか

- 5点 多数の外国企業との取り組みがある。
- 4点 複数の実績があるが、少ない。
- 3点 実績があり、具体的計画もある。
- 2点 世界的視野について少し触れているが、ただ具体的ではない。
- 1点 国内のみでの経営である。

(オ) 投資家への対応（資料請求や公式HPでの質問等への対応の評価）

- 5点 対応が迅速で内容の濃い資料をくれた。
- 4点 ちょっと遅かったが内容の濃い資料をくれた。
- 3点 資料はくれたが思うような資料とはいえなかった。
- 2点 ホームページで自己調達するよう言われた。
- 1点 2週間以上放置された。

⑪財務・資本構成

●基準とした指標・・・ア. 総資産の金額、イ. 営業CF

(ア) 総資産の金額

- 5点 10兆円以上
- 4点 3兆～10兆
- 3点 1兆～3兆
- 2点 6000億～1兆
- 1点 1000億円以上～6000億未満

(イ) 営業CF

- 5点 5%以上
- 4点 3%～5%
- 3点 2%～3%
- 2点 1%～2%
- 1点 0.6%～1%未満

⑫※最終評価（50点分）加点にあたって、重視した3つの点

1. 外国人持ち株比率の高いほうから優先して高い基礎得点をつけた。
2. 業界としての投資金額の配分を考えた。（パナソニック等を下げているのは、まさに業種ごとのバランスを考慮、業種内での企業の属する分野のバランスを総合的に判断しからだ。私たちのこのポートフォリオにかけ、思いや願いを金額配分によって表現した。）
3. ①～⑪までの基準で得点を出したが、実際は業種によっての高得点が出やすい業種とそうでない業種との差があると感じたので、得点と投資金額を単純には比例させてはならないと決定した。その業種別の差異にウエイトをつけるよう考慮し、投資金額の偏りを是正した。

STEP 5

以上を250点満点で点数化し、約300社の中から、各業種ごと上位に入った1～3社を抽出。私たちのテーマに沿った、素晴らしい20社は以下の通りとなった。

(表2-1) 抽出結果20社(得点合計の順位順)

※合計点は整数表示

順位	銘柄コード	銘柄名	市場	業種	1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性	6 割安感	7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本 構成	12 テーマ性 魅力	合計
1	7751	キヤノン	東1	電気機器	20	15	7.5	12	15	7.4	20	16	20	25	15	50	223
2	7267	本田技研工業	東1	輸送用機器	16	9	12	11	12	8.6	20	20	20	25	13	40	206
3	6752	パナソニック	東1	電気機器	20	12	4.5	11	9	8.6	20	20	20	25	15	40	205
4	1605	国際石油開発帝石	東1	鉱業	20	15	15	11	15	8.6	20	4	16	20	13	30	187
5	4503	アステラス製薬	東1	医薬品	20	15	7.5	11	15	8	8	12	16	20	15	40	187
6	2914	日本たばこ産業	東1	食料品	20	9	14	12	12	8	20	4	16	20	10	40	185
7	2503	キリンホールディングス	東1	食料品	20	9	14	9	15	7.4	16	4	20	25	13	30	181
8	5401	新日本製鐵	東1	鉄鋼	20	9	7.5	12	15	6	20	4	20	20	15	30	179
9	4502	武田薬品工業	東1	医薬品	16	15	7.5	7.5	15	6	8	16	12	20	13	40	176
10	7974	任天堂	東1	その他製造	20	15	15	7.5	15	5.4	4	4	16	20	13	40	174
11	3436	SUMCO	東1	金属製品	20	12	15	11	15	8.6	4	4	16	15	15	30	165
12	9101	日本郵船	東1	海運業	20	6	14	14	12	8	4	0	16	25	13	30	161
13	9984	ソフトバンク	東1	情報・通信業	20	3	15	11	9	5.4	20	4	12	25	15	20	159
14	9062	日本通運	東1	陸運業	20	9	3	11	6	6.6	20	4	16	15	13	30	153
15	4704	トレンドマイクロ	東1	情報・通信業	16	12	15	7.5	15	5.4	4	4	4	25	13	30	150
16	6594	日本電産	東1	電気機器	20	9	9	12	12	6.6	8	4	0	20	18	30	148
17	8316	三井住友FG	東1	銀行業	20	3	6	6	6	5.4	0	4	12	20	13	50	145
18	8306	三菱UFJFG	東1	銀行業	16	3	12	4.5	6	6.6	0	4	12	20	10	50	144
19	8031	三井物産	東1	卸売業	20	6	4.5	15	6	8	4	0	12	25	13	30	143
20	8604	野村ホールディングス	東1	証券業	8	3	7.5	0	6	10	0	4	12	25	10	50	136

4. 投資分野別分類

更にコンセプトに従い、分野別に区分すると以下の通りとなる。

(表2-2) 投資分野 全20銘柄

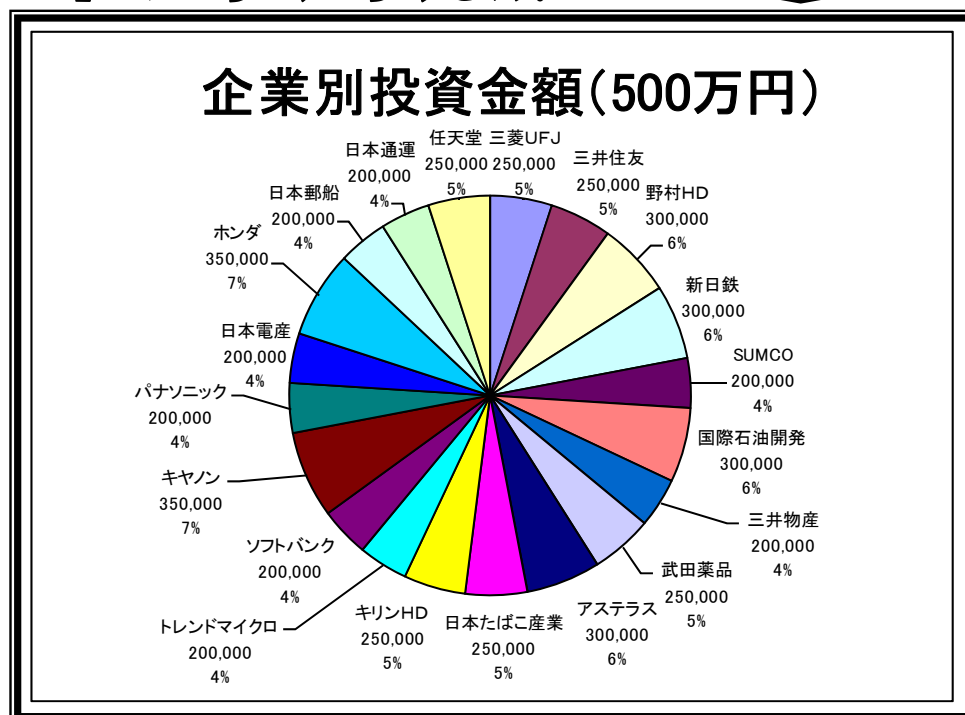
分 野	業種名	企業(銘柄)名
○第1の柱 (I) (直接、間接金融の強化) サブプライム高リスク業種	銀行業	三菱UFJフィナンシャル・グループ、 三井住友フィナンシャルグループ
	証券、商品先物取引業	野村ホールディングス
○第2の柱 (II) サブプライム関連 低リスク業種	鉄鋼	新日本製鐵
	金属製品	SUMCO
	鉱業	国際石油開発帝石
	卸売業	三井物産
	医薬品	武田薬品工業、アステラス製薬
	食料品	日本たばこ産業、キリンホールディングス
	情報・通信業	トレンドマイクロ、ソフトバンク
○第3の柱 (III) 日本の強み！ (自らの“売り”の業種) パートナーシップには不可欠	電気機器	キヤノン、パナソニック、日本電産
	輸送用機器	本田技研工業
	海運業	日本郵船
	陸運業	日本通運
	その他製造	任天堂

最後に、総合評価点の高い順と投資業種内でのバランスを調整し、上位銘柄分析を踏まえ、以下の通り4段階の投資金額を設定し、500万円を配分した。

(表2-3) 総合評価点ごとの投資金額

投資金額区分	投資金額	総合評価点・業種内調整
① 最も高い	350,000 円	200 点以上・業種内第 1 位
② 高い	300,000 円	185 点以上 or 業種内第 1 位
③ 普通	250,000 円	140 点以上 (業種内調整)
④ やや低い	200,000 円	140 点以上 (業種内調整)

ポートフォリオ完成!



(図2-3) 企業別投資金額 (500 万円)

III 個別銘柄分析とグローバル投資 (資本提携) マップ

表記載例) 企業名[銘柄コード 市場名 業種] ○外国人持ち株比率 — % (区分S~C)

※ 区分は、外国人持ち株比率 50%以上…S、39%以上…A、20%以上…B、20%より下…C

1 業績×4点	2 安全性×3点	3 成長性×3点	4 効率性×3点	5 配当性向×3点	6 割安感×2点
—	—	—	—	—	—
7 技術力×4点	8 研究開発×4点	9 環境×4点	10 CSR×5点	11 財務資本構成×5点	12 テーマ性・魅力×10点
—	—	—	—	—	—
企業説明				●総合評価点 (合計点)	
				250 満点	

1) 三菱UFJフィナンシャル・グループ[8306 東証1部 銀行業]

○外国人持ち株比率 31.0% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
16	3	12	4.5	6	6.6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
0	4	12	20	10	50
国内最大の金融グループ。9月29日にモルガン・スタンレーに90億ドルを出資、モルガン・スタンレーの潜在的議決権21%を取得し、資本提携を行うことを合意した。お互いを戦略的パートナーと位置づけ、今後幅広い分野で世界的戦略を検討していく予定。パートナーという言葉が出ていることから本ポートフォリオの中核銘柄。				●総合評価点 (合計点)	
				144.1 点	

2) 三井住友フィナンシャルグループ[8316 東証1部 銀行業]

○外国人持ち株比率 39.4% (区分A)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	3	6	6	6	5.4
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
0	4	12	20	12.5	50
住友グループと、三井グループの両方に属する銀行である。公式HPは、文字の拡大機能や音声読み上げソフトに対応した、高齢者や障害者に優しいページ構成で好印象。 11月19日、優先出資証券を発行すると発表し約4000億円を調達する予定。資本を増強することで、株価急落等で生じた損失に伴う自己資本の目減りに対応する他、貸し出し余力を高める戦略も高評価。				●総合評価点 (合計点)	
				144.9 点	

3) 野村ホールディングス[8604 東証1部 証券、商品先物取引業] ○外国人持ち株比率 39.7% (区分A)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
8	3	7.5	0	6	10
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
0	4	12	25	10	50
証券会社最大手。世界的な金融危機の影響で、08年9月中間連結決算の税引き後利益は1494億円の赤字になったが、こうした状況の中、リーマンインド子会社を3社買収することを発表。09年3月期は、約8000人を受け入れ、人件費が約2000億円膨らむこともあり、赤字幅は更に拡大する恐れも出ているが、グローバルな積極的姿勢を今後応援したい。				●総合評価点 (合計点)	
				135.5 点	

4) 新日本製鐵[5401 東証1部 鉄鋼]

○外国人持ち株比率 18.2% (区分C)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	9	7.5	12	15	6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	4	20	20	15	30
粗鋼生産シェアでJFEスチールとトップを争う。ヨーロッパでは圧倒的な最大手のアルセロールミタルとも01年1月に提携を結んでいる。11月25日、自動車メーカーの生産計画下方修正により、計画していた粗鋼生産の減産幅を拡大する方針を明らかにした。減産は10年ぶりだが、1000を超える特許を所有する等、高級鋼材などの技術水準の高さには定評があり、日本を代表する製造企業なので投資対象とした。				●総合評価点 (合計点)	
				178.5 点	

5) SUMCO[3436 東証1部 金属製品]

○外国人持ち株比率 17.5% (区分C)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	12	15	10.5	15	8.6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
4	4	16	15	15	30
<p>シリコンウエハー生産の世界シェアは信越化学工業に次いで2位。シリコンが使われている製品は、パソコンや携帯電話、ゲーム機、トランジスタラジオ等、広くまた身近に存在する。太陽電池用シリコンウエハー事業が市場の急成長により積極的に事業展開をしている点が高評価。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>165.1 点</p>					

6) 国際石油開発帝石[1605 東証1部 鉱業]

○外国人持ち株比率 16.2% (区分C)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	15	15	10.5	15	8.6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	4	16	20	12.5	30
<p>世界26カ国でエネルギーの供給を担っている。黄金株を発行しながらも(エネルギーの安定確保のため)唯一、株式上場が認められている企業である。筆頭株主は日本国政府。</p> <p>11月4日、ブラジル鉱区の権益を20%取得。大規模な原油・天然ガスの埋蔵発掘が相次ぐブラジルをはじめ南米地区において、原油・天然ガス資産を一層拡大するため、今後更なる探鉱、開発事業を推進していく点も高評価。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>186.6 点</p>					

7) 三井物産[8031 東証1部 卸売業]

○外国人持ち株比率 38.9% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	6	4.5	15	6	8
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
4	0	12	25	12.5	30
<p>三菱商事、住友商事と並んで日本を代表する総合商社であり、三井グループの中核企業で、財務状況も安定。</p> <p>日豪7社共同開発による、温室効果ガス排出量削減のための革新的な既存発電所付加型CCS(二酸化炭素回収・貯留)一貫システムの世界初の実証に向けた工事「炭火力CCS技術実証プロジェクト」が本格稼動した。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>143.0 点</p>					

8) 武田薬品工業[4502 東証1部 医薬品]

○外国人持ち株比率 37.0% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
16	15	7.5	7.5	15	6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
8	16	12	20	12.5	40
<p>世界第16位の製薬会社。08年9月25日、アジア地域における販売統括会社として、シンガポールに100%出資子会社である「武田ファーマシューティカルズ・アジア株式会社」を設立した。アジアの医薬品市場は、日米欧の各市場を上回る成長率が見込まれており、更なる市場シェア拡大と、これからの新規市場への進出が期待される。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>175.5 点</p>					

9) アステラス製薬[4503 東証1部 医薬品]

○外国人持ち株比率 46.6% (区分A)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	15	7.5	10.5	15	8
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
8	12	16	20	15	40
Newsweek 誌による世界企業ランキングでは07年・08年はそれぞれ10位、35位。日本企業としてはともに1位と非常に高い評価を得ている。11月18日、インド市場に本格参入すると発表。医薬品販売子会社を設立、泌尿器疾患や臓器移植後の免疫抑制に使う自社開発品を販売。これまで委託販売をしていたが新薬市場の拡大が見込めると判断し、自社での販売に乗り出すことも高評価。					
●総合評価点 (合計点) 187.0 点					

10) 日本たばこ産業[2914 東証1部 食料品]

○外国人持ち株比率 28.9% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	9	13.5	12	12	8
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	4	16	20	10	40
たばこ販売数量では国内より海外の方が上回っており、約120カ国において海外たばこ事業を展開。2007年には世界第2位のたばこ会社ギャラハー社を買収し、世界視野の拡大、相互補完性および技術の強化により世界中をフィールドに積極的に事業展開できる状況。医薬品や食品・飲料等も世界を視野に入れており、海外展開に拍車がかかる。					
●総合評価点 (合計点) 184.5 点					

11) キリンホールディングス[2503 東証1部 食料品]

○外国人持ち株比率 21.3% (区分C)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	9	13.5	9	15	7.4
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
16	4	20	25	12.5	30
発泡酒では首位に立ち、医薬品にも大変力を入れている。海外飲料事業・酒類事業では、中国を中心にアジア・オセアニア地域を重点地域と位置づけ展開を続ける。医薬事業でも、世界最高レベルのヒト抗体産生マウス技術など研究開発の評価が高く、2007年では北米で自社での臨床開発を開始し、海外進出に積極的に取り組み、今後に期待できる。					
●総合評価点 (合計点) 181.4 点					

12) トrendマイクロ[4704 東証1部 情報・通信業]

○外国人持ち株比率 67.3% (区分S)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
16	12	15	7.5	15	5.4
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
4	4	4	25	12.5	30
セキュリティ関連製品の開発・販売を行い、国内では個人向け・法人向けともに、また海外でも法人向けでシェアトップ。7月には、米国に「TrendLabsUSA」を設立。フィリピンを本部とし中国、米国、ドイツ等計9カ国10カ所に拠点を置き、地震や災害等の事態に事業継続できるよう世界規模で強化。外国人持ち株比率がポートフォリオ中最も高く、外国人の注目度が大変高い企業。					
●総合評価点 (合計点) 150.4 点					

13) ソフトバンク [9984 東証1部 情報・通信業]

○外国人持ち株比率 19.7% (区分C)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	3	15	10.5	9	5.4
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	4	12	25	15	20
<p>携帯電話等の電気通信・インターネット関連を傘下に置き世界を舞台にサービスを提供している。4月には、チャイナモバイルと英ボーダフォンとの間で携帯端末を利用した新技術やアプリケーションサービスを開発する合併会社を設立。最近では中国最大のSNSを運営するOak Pacific Interactive社の株式と新株式予約を取得する等海外展開を加速している。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>158.9 点</p>					

14) キヤノン [7751 東証1部 電気機器]

○外国人持ち株比率 44.4% (区分A)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	15	7.5	12	15	7.4
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	16	20	25	15	50
<p>カメラやプリンタ・複写機をはじめとしたデジタルマルチメディア等世界に誇る精密機器メーカー。07年米国特許登録件数が第3位で、ビジネスウィーク誌のベスト・グローバル・ブランドで世界第36位。京都大学と組み、病変を早期にとらえる研究開発を積極的に取り組んでいることは高評価。また、ドバイに販売拠点を設立する等、積極的に世界に展開する国際優良企業。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>222.9 点</p>					

15) パナソニック [6752 東証1部 電気機器]

○外国人持ち株比率 28.8% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	12	4.5	10.5	9	8.6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	20	20	25	15	40
<p>日本の総合電器メーカーで事業持株会社としてパナソニック電工、パナホームなど傘下に持つ大手。ユニバーサルデザイン研究にも力を入れており、視覚障がい者や高齢者などに見やすい独自のフォント「PUDフォント」を開発するなど高齢化社会に貢献している。三洋電機も買収し、今後も世界を舞台にグローバル企業として成長していく期待が高い。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>204.6 点</p>					

16) 日本電産 [6594 東証1部 電気機器]

○外国人持ち株比率 30.2% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	9	9	12	12	6.6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
8	4	0	20	17.5	30
<p>精密小型モーターの開発・製造において世界一のシェアを誇っている。また、日本電産(株)子会社の日本電産ブリリアント株式会社は、中国・蘇州にHDD用ベースプレート生産の新工場を建設することとなり、2008年11月11日に起工式を行った。子会社の多くは海外を拠点に製造・販売している。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>148.1 点</p>					

17) 本田技研工業 [7267 東証1部 輸送用機器] ○外国人持ち株比率 35.4% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
16	9	12	10.5	12	8.6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	20	20	25	12.5	40
<p>日本を拠点とする大手機械工業メーカー。海外 Honda グループの社会活動として、現地の地域活動に積極的に参加している。また、2008年10月度に四輪車 生産・販売・輸出実績から世界生産が全ての月を通して過去最高を記録。タイ、インド、ベトナム等海外の各地で新たな工場の稼働が開始した。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>205.6 点</p>					

18) 日本郵船 [9101 東証1部 海運業] ○外国人持ち株比率 29.6% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	6	13.5	13.5	12	8
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
4	0	16	25	12.5	30
<p>日本を代表する大手三大海運会社の一つである。海運業、物流事業、ターミナル関連事業のみならず、航空運送事業や輸送システムの研究・開発、不動産事業等多様な事業を展開している。6月、5月に起こった中国・四川大地震の被災地への復興支援を行うことを発表。現地の小学校内の施設の修復を挙げる等、世界的な社会貢献を行っている。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>160.5 点</p>					

19) 日本通運 [9062 東証1部 陸運業] ○外国人持ち株比率 26.4% (区分B)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	9	3	10.5	6	6.6
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
20	4	16	15	12.5	30
<p>大手物流業者および旅行業者。総合物流国内最大手で、業界唯一の災害対策基本法における、内閣総理大臣指定機関。今年11月、中国・深セン市に新会社「華南日通」を設立し、顧客ニーズに即応する意向を示した。また、社会貢献活動として、発展途上国の子供たちの命と健康を守る活動に役立てる「ユニセフ外国コイン募金」を支援している。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>152.6 点</p>					

20) 任天堂 [7974 東証1部 その他製造] ○外国人持ち株比率 43.8% (区分A)

1 業績	2 安全性	3 成長性	4 効率性	5 配当性向	6 割安感
20	15	15	7.5	15	5.4
7 技術力	8 研究開発	9 環境	10 CSR	11 財務資本構成	12 テーマ性・魅力
4	4	16	20	12.5	40
<p>玩具、ゲームを製造する企業。家庭用ゲーム機では日本、海外問わず、最大級の企業。任天堂の子会社は海外企業で、海外拠点も多くあり、株の所有者として外国人の割合が一番高いグローバル企業。2008年9月の時点で、過去最高益を出した。「DS」「Wii」の販売が欧米で好調だった。</p>					
<p>●総合評価点 (合計点)</p> <p>174.4 点</p>					

ポートフォリオ設定20社の最近のグローバル投資(資本提携)マップ

パナソニック
ベルギーに名のエレクトロニクス研究開発コンソーシアム IMEC が包括共同研究契約を締結
08年11月

日本たばこ
イギリスで世界第2位のたばこ会社ギヤラハー者を75億ポンド(1兆7800億円)で買収
06年12月

ソフトバンク
ソフトバンク、チャイナモバイル、ボーダフォン合併会社「ジョイント・イノベーション・ラボ(JIL)」の設立
08年4月

日本通運
中国深セン市に新会社「華南通運」設立。新会社の資本金としては2000万円(約3億円)である。顧客ニーズに即応
08年10月

三菱UFJ
90億米ドル(約1兆円)をモルガンスタンレーンに出資
08年10月

任天堂
DSとWiiは歴史的な売上とされた。11月の売上2011万台、DSは156万台。
08年12月

日本郵船
中国・四川大地震の被災地へ支援。小学校内の施設を修復。1000万円寄付。
08年11月

野村HD
インドでリーマンインド拠点を買収。買収金額未発表
08年10月

トレンドマイクロ
米国で「TrendlabsUSA」設立

日本電産
ベトナムに海外子会社設立。08年10月に生産開始。投資計画

アステラス
インドに医薬品販売子会社を設立
08年11月

ホンダ
タイ、インド、ベトナムで新工場稼働開始
08年11月

三井住友
ブラジルに800千レアルでCDMコンサルディング子会社設置
08年12月

国際石油
ブラジル南西沖寛ボス堆積盆地の権益を20%取得
08年11月

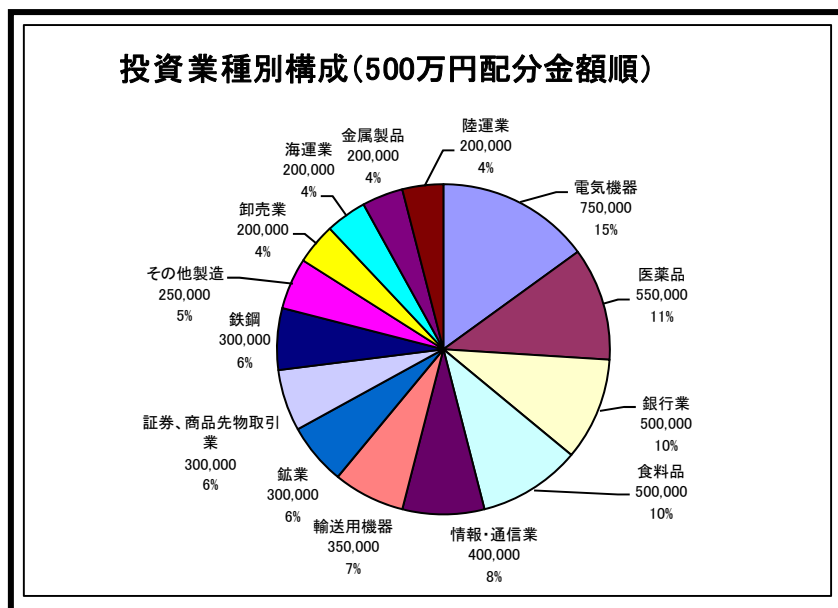
三井物産
オーストラリアの石灰火力CCS技術実証プロジェクトに日豪7社で2億600万ドル出資
08年11月

キリンHD
オーストラリアのコカコーラマティール社全株式取得
08年11月

新日鉄
日韓企業連合で3120百万米ドル(3120億円)でブラジルNAMISA社の株式40%取得

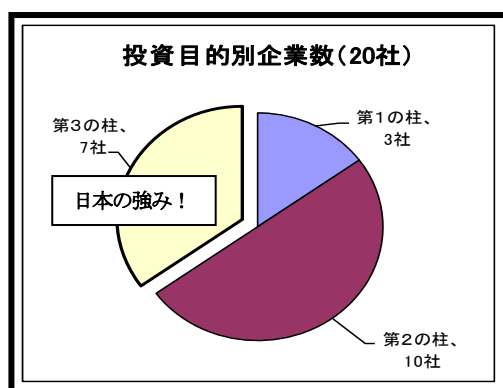
IV ポートフォリオの客観分析

1. 投資業種別構成



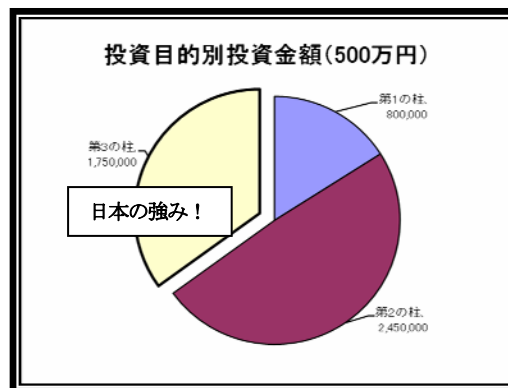
(図4-1) 投資業種別構成 (500 万円)

2. 投資目的企業数 (20 社)



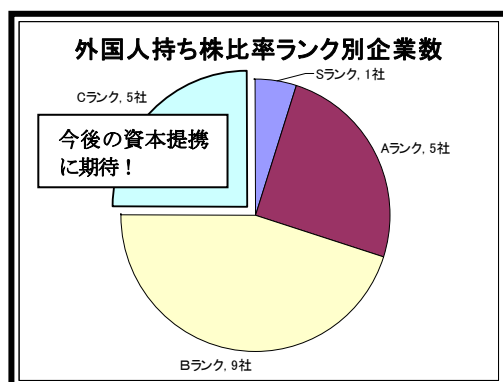
(図4-2) 投資目的企業数グラフ

3. 投資目的別投資金額 (500 万円)



(図4-3) 投資目的別投資金額グラフ

4. 外国人持ち株比率ランク別企業数



(図4-4) 外国人持ち株比率ランク別グラフ

5. ポートフォリオ中の外資大株主上位8社

(表4-1) 外資大株主登場回数上位8社

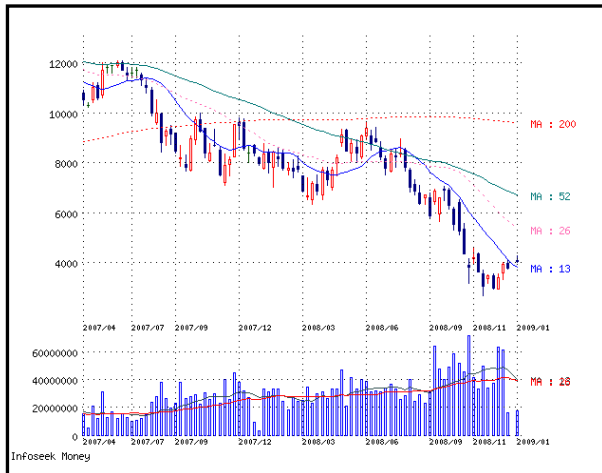
順位	会社名	本社所在国	20銘柄中登場回数
1	ステート・ストリート	米国	14
2	JP モルガン・チェース	米国	10
3	チェースロンドン	英国	3
4	ヒーロー & CO.	米国	1
4	CBHK コリアセキュリティーズ	韓国	1
4	モルガン・スタンレー	米国	1
4	ゲインウェイエンタープライズ	英国	1
4	メロンバンク・オムニバス	米国	1

6. 主な各分野別銘柄チャート（週足 90）

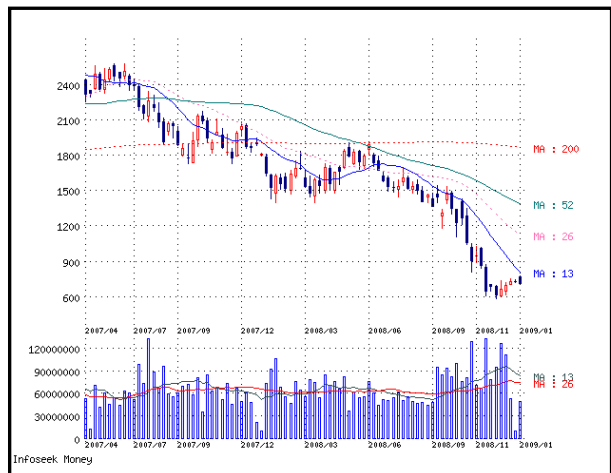
※（ ）内はポートフォリオ設定期間中の株価最大上昇率

（１）第１の柱（金融の強化分野より２社抽出）

A 三井住友フィナンシャルグループ（最大+22.9%）（図４－５）

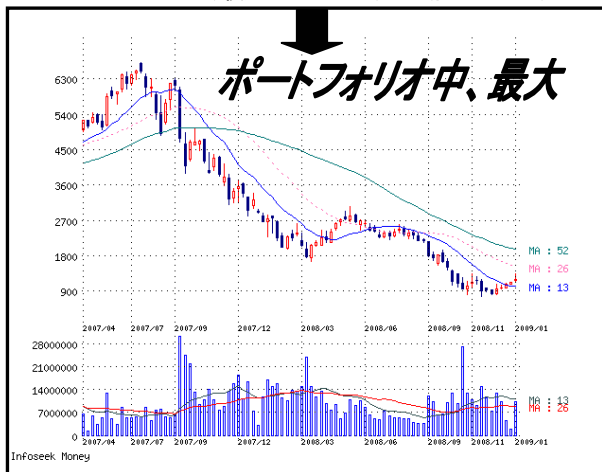


B 野村ホールディングス（最大+10.8%）（図４－６）

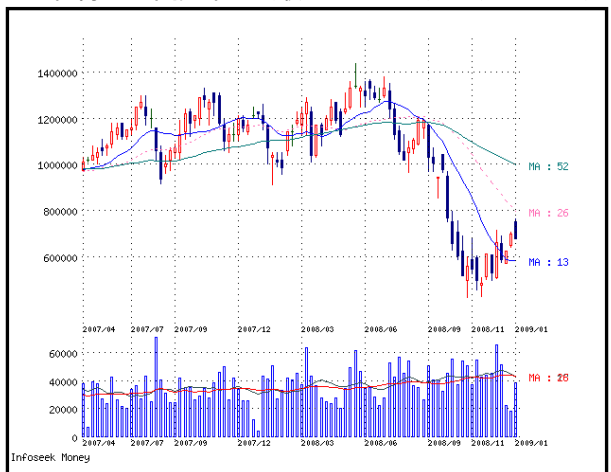


（２）第２の柱（サブプライム関連低リスク業種より２社抽出）

A SUMCO（最大+38.3%）（図４－７）

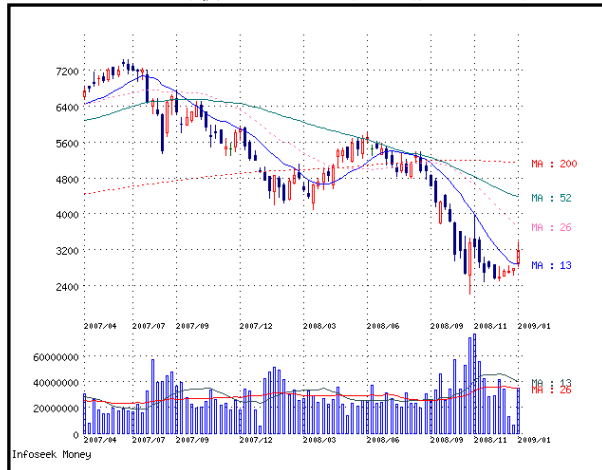


B 国際石油開発帝石（最大+21.9%）（図４－８）

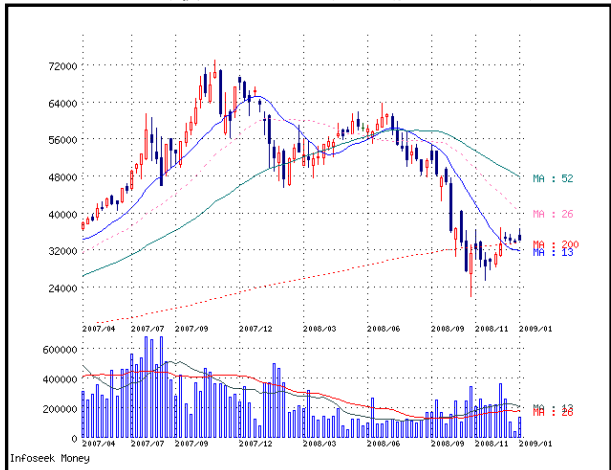


（３）第３の柱（日本の強みの企業群より２社抽出）

A キヤノン（最大+17.2%）（図４－９）



B 任天堂（最大+22.6%）（図４－１０）



7. 日経平均株価チャート（週足90）

※ 08年11月30日～09年1月8日の間で、4.3%上昇



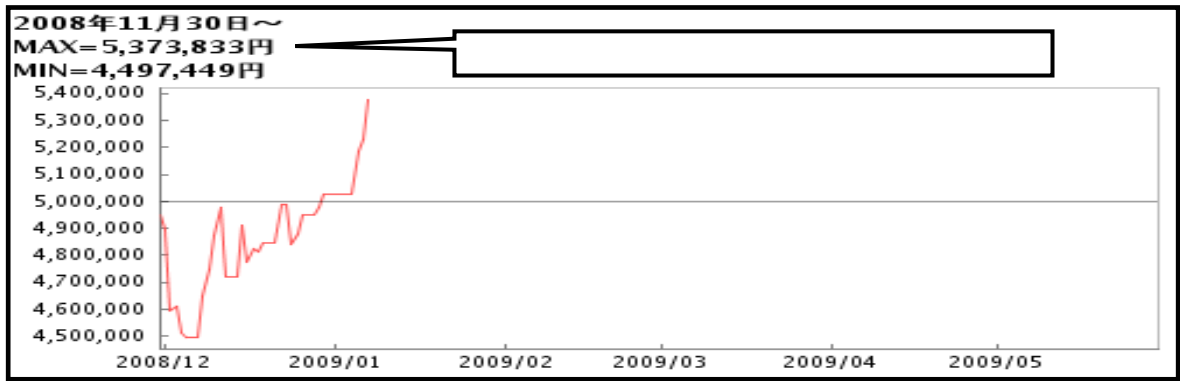
（図4-11）07年4月～09年1月9日現在（週足90）

8. 全20銘柄個別株価の動き（3分野ごと区切り）

（表4-2）ポートフォリオ個別銘柄株価の動向（11月末設定時～1月8日現在）

購入日	銘柄名(第1分野)	取得単価	取得株数	取得金額	終値	評価額(円)
2008/11/30	三菱UFJフィナンシャル・グループ（東証1部）	521	474	246,954	560	265,440
2008/11/30	三井住友フィナンシャルグループ（東証1部）	345,000	0.7	241,500	4,030	282,100
2008/11/30	野村ホールディングス（東証1部）	688	431	296,528	712	306,872
購入日	銘柄名(第2分野)	取得単価	取得株数	取得金額	終値	評価額(円)
2008/11/30	新日本製鐵（東証1部）	297	999	296,703	308	307,692
2008/11/30	SUMCO（東証1部）	925	213	197,025	1,205	256,665
2008/11/30	国際石油開発帝石（東証1部）	612,000	0.4	244,800	679,000	271,600
2008/11/30	三井物産（東証1部）	846	233	197,118	992	231,136
2008/11/30	武田薬品工業（東証1部）	4,610	53	244,330	4,410	233,730
2008/11/30	アステラス製薬（東証1部）	3,890	76	295,640	3,350	254,600
2008/11/30	日本たばこ産業（東証1部）	350,000	0.7	245,000	295,100	206,570
2008/11/30	キリンホールディングス（東証1部）	1,158	213	246,654	1,112	236,856
2008/11/30	トレンドマイクロ（東証1部）	2,780	71	197,380	2,950	209,450
購入日	銘柄名(第3分野)	取得単価	取得株数	取得金額	終値	評価額(円)
2008/11/30	ソフトバンク（東証1部）	1,302	152	197,904	1,508	229,216
2008/11/30	キヤノン（東証1部）	2,825	122	344,650	3,170	386,740
2008/11/30	パナソニック（東証1部）	1,144	173	197,912	1,220	211,060
2008/11/30	日本電産（東証1部）	4,610	42	193,620	3,950	165,900
2008/11/30	本田技研工業（東証1部）	2,085	166	346,110	2,145	356,070
2008/11/30	日本郵船（東証1部）	517	382	197,494	538	205,516
2008/11/30	日本通運（東証1部）	427	463	197,701	372	172,236
2008/11/30	任天堂（東証1部）	29,540	8	236,320	34,050	272,400

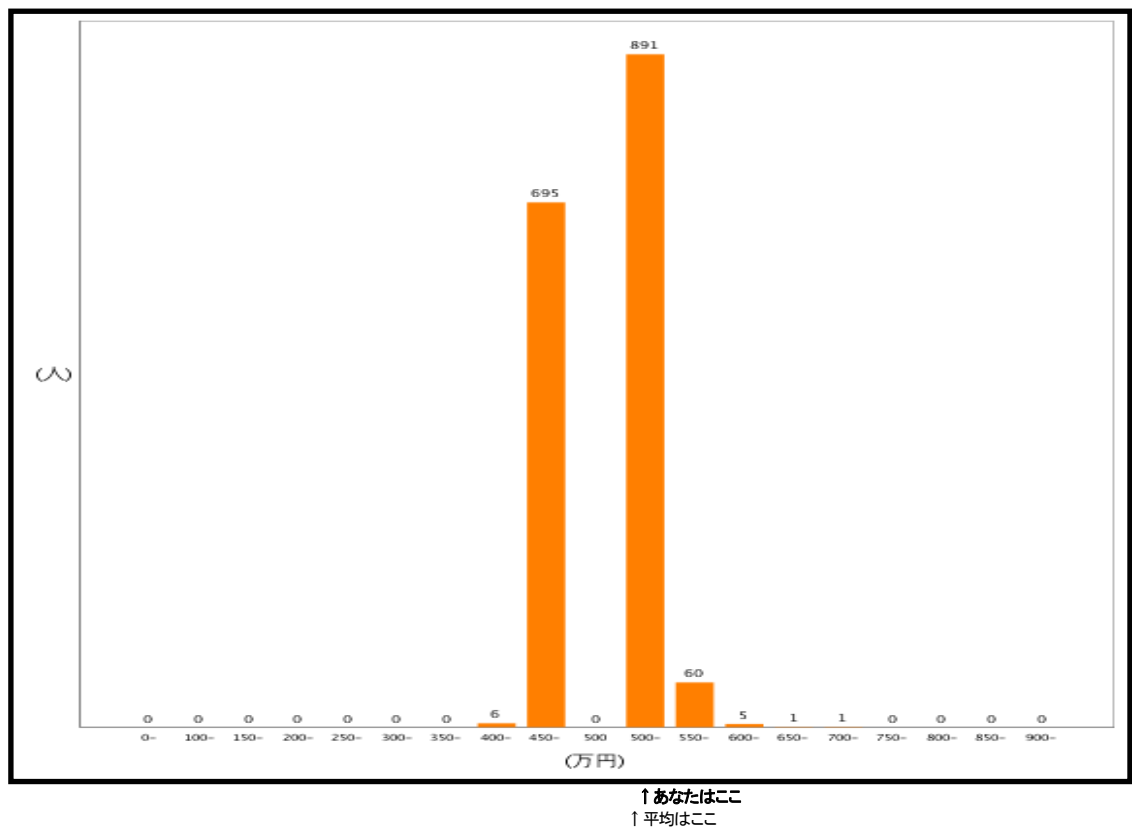
9. ポートフォリオ設定後のパフォーマンス



(図4-12) 設定から1月8日(最終日)までの動き

(表4-3) 1月8日(最終日)時点の評価額

SL900107 さんの評価額:	5,149,478 円
平均評価額:	5,067,015 円



(図4-13) 1月8日(最終日)の評価額の分布

TOTAL:1,659 人

V ポートフォリオの分析と総括

ポートフォリオ作成を振り返り、特に工夫した2点は、次の通り。

- 1 テーマの性質と世界的不況を考慮し、上限20銘柄まで購入し、最大限のリスク分散をすること。
- 2 現在の金融不況から早く抜けるために急いで行動しなければならない部分と、中長期の視点で成長できる部分の時間的分散の視点を大事にし、その投資目的と投資分野を明確にすること。

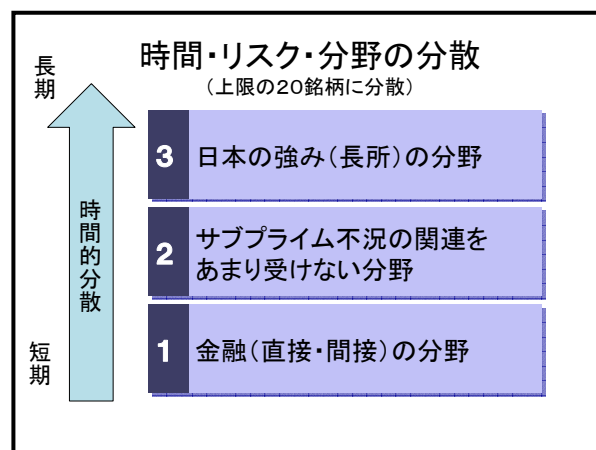
具体的には、以下の表にまとめられる。

(表5-1) 本ポートフォリオのまとめ(分析)

時間的分散	投資目的と投資行動(投資分野)
1 短期	①金融業の国際的強化を図り、安定した信頼のおける状況を取り戻す投資行動。 金融は人間という心臓。心臓が弱っているから、血液(資本=お金)の循環が世界的に機能しづらくなっている。緊急的であっても、金融業に大きな資本を注入する。 更に、日本を代表する金融機関はこのサブプライム関連不況では大きな優位性があり、状況によっては大きなリターンを得られる可能性もあると判断した。
2 短・中長期	②ある程度確実に、リターンを確保する投資行動。リスク分散。 この100年に1度といわれる経済危機の回復には数年はかかるだろう。だから、サブプライム不況の影響をあまり受けにくい業種へ投資する。
3 中長期	③景気回復後、必ず大きなリターンを生むことを期待した投資行動。 ベストパートナーと互いに認め合える存在になるためには自らの強みを理解し、それを強化し、グローバルな資本を集め、競争力を持つ準備をしっかりとしなければならない。

私たちが、今行動しなければならない優先順位を明確にした3本柱で、当初のコンセプト通り、満足のいく“09 相棒ファンド ver.1”の20銘柄を選出できた。

あえて、ver.1としたのは、激変する今の経済状況の変化に合わせ、上記①、②、③の投資金額や銘柄等を柔軟に変えていく視点を大事にしたかったからだ。



(図5-1) 時間・リスク・分野の分散

総括として、5点にまとめる。

①ポートフォリオ設定直後の12月4日、キヤノンの人員削減が大きく報道され、社会問題へと進展していった。株価への大きな影響も予想されたが、殆ど下がらず、結果的には17.2%上昇した。その原因の一つとして、投資家は業績が悪化した状況下での経営者の判断を評価しているからではないかと考えた。これぞまさに企業と投資家との間で築かれた“信頼”であろう。また、ホンダの株価は12月5日のF1撤退発表後に大きく上げた。「悔しい、残念、心苦しい」とF1撤退の苦渋の会見をする福井社長の姿を見ると、とても残念だったが、投資家は冷静に分析している人が多いことも大変勉強になった。

②心配した金融機関3社の株価についても下がるどころか全て上がった。世界的な金融不況が連日叫ばれ続ける中、グローバルに行動しようとする意欲と優位性を持った日本の金融業の底力は、十分投資に値するものだという、私たちの思いと一致したようで、とても嬉しかった。

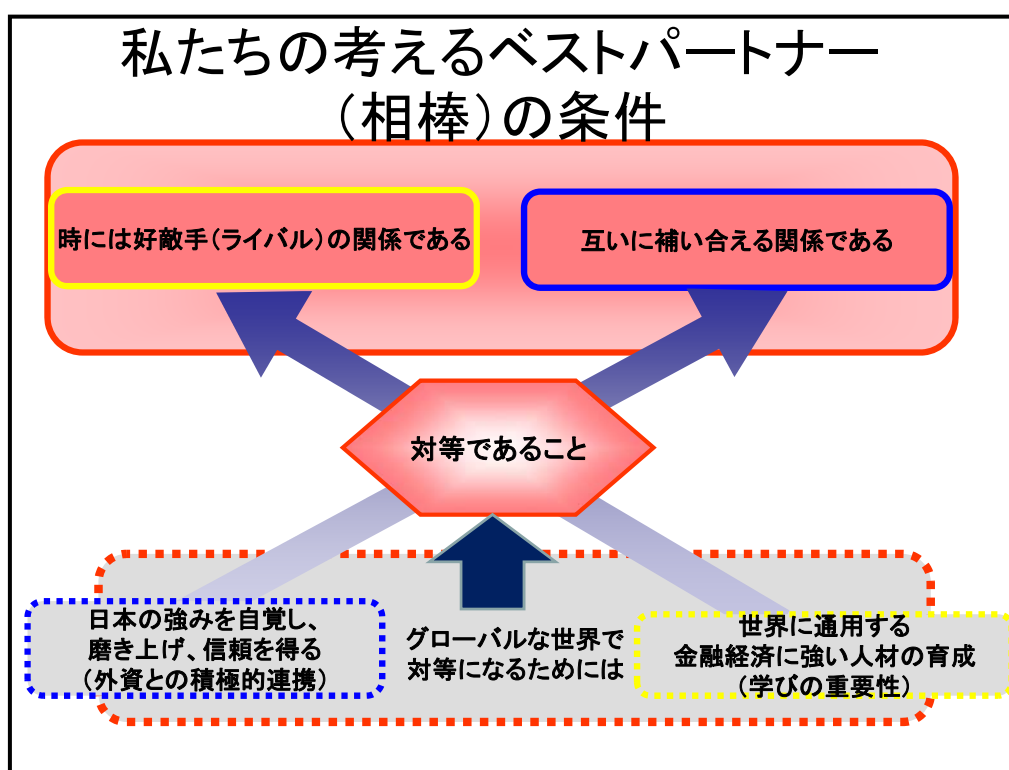
③SUMCOは世界的不況の中でも、12月9日に太陽電池向けウエハーの増産投資拡大を発表した。これが影響して株価はプラス38.3%まで上昇、ポートフォリオ中で最も上がり期待に応えてくれた。

④IT企業2社も、ソフトバンクのプラス約20%上昇を筆頭に、順調に株価を伸ばしている。

⑤ポートフォリオ全体としても、設定直後の12月5日～10日の間で最低の4,497,449円(1,400位台/1,659チーム中)を記録する等、元本割れが続いたが12月30日に初めてプラスに転じ、良い年越しができた。更に、1月7日には、最高の5,373,833円と7.5%の利益(年利換算89.7%)を出した。わずか数日間で1,000チーム以上を抜き、401位となり、20銘柄中14銘柄がプラスとなったことで、私たちのポートフォリオに大きな自信を持つことができた。

VI ストックリーグのまとめ

地元のかげがえのない資産だった「城島後樂園ゆうえんち」が外資の買収に支えられたことがきっかけとなった今回の学びの過程で、資本（金融）に国境がなくなったこと、その世界の中でグローバル・パートナーシップを探る事の大切さを実感した。また、ベストパートナー（相棒）の3つの条件について整理できた。一つ目は、「対等な関係」であること、二つ目は、相棒は時に良き好敵手（ライバル）であること、三つ目は、互いに補完できる関係にあることが望ましい、ということである。最も重要なキーワードである「対等」となるための私たちの大きな課題と方向性もはっきりと見えてきた。一つは、日本の強み（長所）を自覚し、それを磨き、他国からの高い信頼を得ること。もう一つは、金融経済の分野で世界に通用する人材の育成（私たちの学びの重要性）の大切さである。（図6－1）これらを解決し、互いにグローバルなベストパートナーとしての信頼関係の下で、行動できるようになった時、現在のサブプライム問題に端を発した経済不況を、プラスに変えることができるチャンスが来るのだと思う。この変動こそ、経済の本来の姿なのではないだろうか。

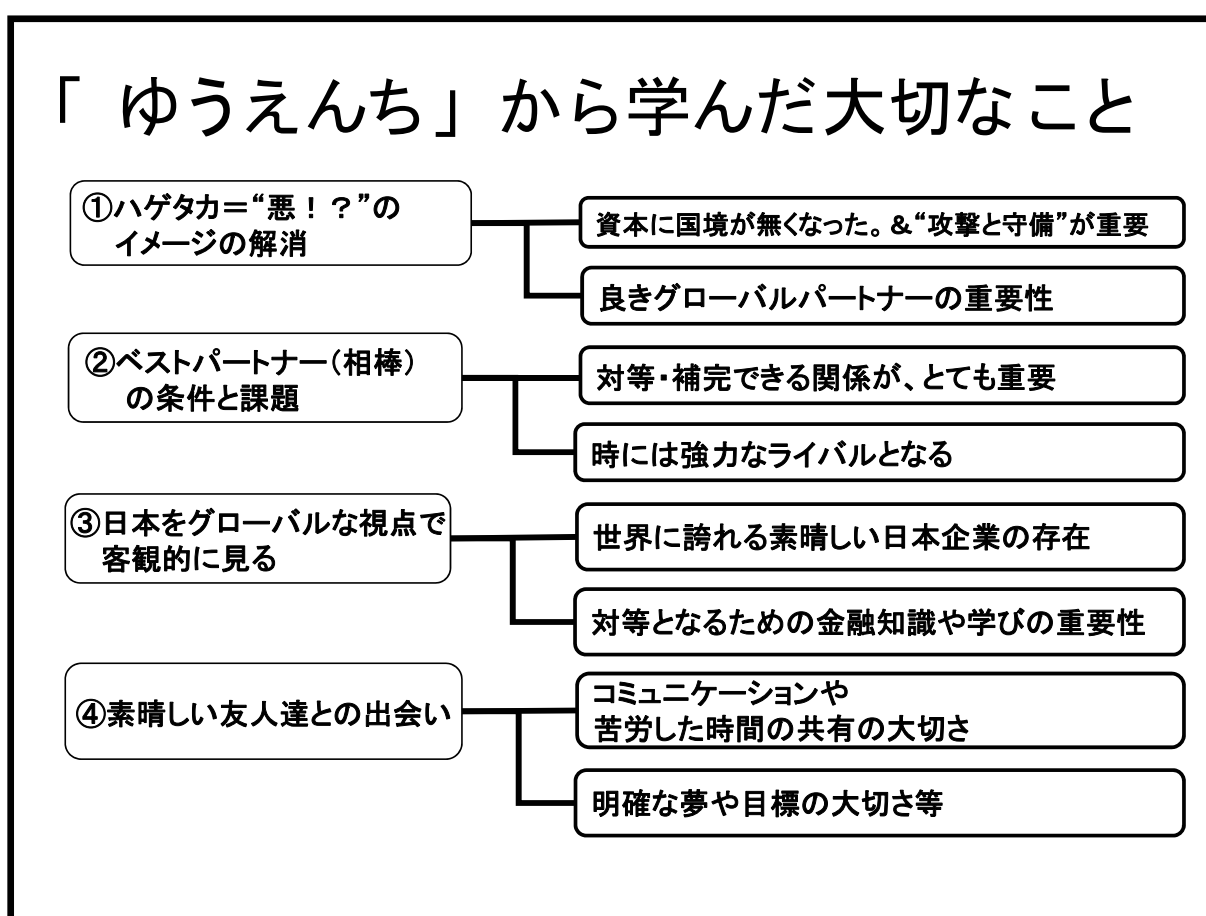


（図6－1）私たちの考えるベストパートナー（相棒）の条件

最後に、“「ゆうえんち」から学んだ大切なこと”を4点にまとめた。（図6－2）①外資の買収＝“ハゲタカ”＝“悪？”というイメージが解消できたこと。互いに資本主義社会中心の世界で生きる国同士で、時にはライバルとして“攻撃と守備”を繰り返す関係は確かだ。「買われる時と買い戻す時」、互いに切磋琢磨しながら共存共栄できることは歴史的事実ではないかと思う。②ベストパートナー（相棒）の条件とこの国の課題が明確になったこと。③日本をグローバルな視点から客観的に観ることができるようになったこと。日本には、世界に誇れる優秀で有望な企業が沢山あり、現在の経済不況の中でも活躍できる分野があること。その半面、金融部門で世界に通用する人材の育成が進まないとグローバル経済の中で取り残されてしまう危機的な面も併せ持つこと。④最後は、出会いの素晴らしさ。この約9ヶ月間、本年度初めて開設された、ファイナンシャル・リサーチ（課題研究の選択授業）で偶然集まったクラスも性別も違う3人だったが、互いにコミュニケーションを取りながら、アイデアを出し合い、作

業を分担した。時に行き詰まり、就職試験や入試との両立を助け合う中で、互いを“ベストパートナー（相棒）”と呼べるまで関係が深まっていった。また、指導にあたって下さった先生は、金融や株式について全く知らなかった私たちに、当初から夢や目標を明確にして、一から分かりやすく教えて下さった。4月の最初の授業で、先生が語ってくれた「経済（金融）が分かると自分が分かる。自分が分かると自分が変わる！」という、当時はよく分からなかった言葉が、このストックリーグを終えるにあたって、しっかりと自分たちのものになっているように思う。

卒業後、私たちは就職や大学へと別々の道を歩むが、“「ゆうえんち」から学んだ大切なこと”、そのかけがえのない財産を更に大きくできるよう、金融知識の学びを深め続けていきたいと思う。



（図6－2）「ゆうえんち」から学んだ大切なこと まとめ

◎参考資料

- STOCK FANTASY 日本経済新聞社 2004年
- STOCKリーグ「学習マニュアル」 日本経済新聞社
- 「わかる日経」 日本経済新聞社
- 日経 会社情報 2008 IV秋号 日本経済新聞社
- 会社 四季報 2008 秋季号 東洋経済新報社
- 会社 四季報 2008 業界地図 東洋経済新聞社
- やさしい日経経済用語辞典 2006 日本経済新聞社編
- 日経 流通・サービス業界地図 日経MJ
- 業界地図がまるごとわかる本 2008年度版 三原淳雄 高橋書店
- 日経業界地図 2008年版 日本経済新聞社編
- 日経マネー・7月～12月号 2008年 日経BP社
- Newsweek 6月～12月号 2008年 阪急コミュニケーションズ
- 週刊東洋経済 1月～3月号 2008年 東洋経済新聞社
- 月刊Forbes 2月～8月号 2008年 ぎょうせい
- 知識ゼロからの数字でわかる日本経済のよみ方 長谷川慶太郎 幻冬舎
- 十年つきあう株を見つけよう! 澤上篤人 ダイアモンド社
- 株でお金持ちになる! バフェットの教え ジェームズ・パードウ 中島早苗(訳) アспект
- お金持ちになるためのバフェット入門—世界No.1投資家のシンプルなもうけ方— 三原淳雄 ダイアモンド社
- 株式ABC 東京証券取引所
- セントレジャー城島高原パーク GUIDE BOOK
- 日経トレンディ 2004.10月号, 11月号, 12月号 日経ホーム出版
- 最新業界地図がまるごとわかる本〈2004年版〉 三原淳雄 2004年・2005年 高橋書店
- 最新業界地図がまるごとわかる本〈2006年版〉 三原淳雄 2006年・2007年 高橋書店
- 世界地図で読むグローバル経済 伊藤正直 2004年 旬報社
- 「タブー」の世界地図帳 世界情勢を読む会 平成17年6月 日本文芸社
- 経済のニュースが面白いほどわかる本 日本経済編 細野真宏 1999年 中経出版
- 図解雑学 株のしくみ 寺尾 淳 2000年 ナツメ社
- 超やさしい株価チャートがスラスラ読める本 阿部智沙子 2001年 中経出版
- 日本経済新聞、MJ 流通新聞、大分合同新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞
- 日本たばこ産業 会社案内・CSR報告書2008
- 日本たばこ産業 ANNUAL REPORT 2008
- 松下電器産業株式会社 アニュアルレポート2008
- 松下電気産業株式会社 社会・環境報告 2008年
- 松下電工産業株式会社 パナソニック 環境データブック 2008
- THE CANON STORY 2008/2009
- キャノンマーケティングジャパングループ 会社案内 2008/2009
- SoftBank アニュアルレポート2008
- ソフトバンクグループ CSRレポート 2008
- トレンドマイクロ 会社案内+製品カタログ、5DANGER、トレンド家SOS!!
- KIRIN FACTBOOK
- KIRIN FACTBOOK別冊 国内酒類事業データ集
- KIRIN キリングループ CSRレポート 2008
- KIRIN 会社案内
- キリンホールディングス株式会社 第170期 中間報告書
- SUMCO Silicon Wafer
- SUMCOソーラー株式会社/会社案内、第10期 中間報告書
- HONDA 会社案内・CSRレポート2008、会社案内
- 日本郵船株式会社 アニュアルレポート2008・CSRレポート2008、NYKプラスNo.1・3
- 野村ホールディングス株式会社 アニュアルレポート2008・CSRレポート2008
- 野村ホールディングス株式会社 米国基準 年次報告書「様式20-F」
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ CSRレポート2008 第3月号
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ MUFGのある暮らし 3号・4号
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ 中間期ディスクロージャー誌 2007 本編
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ ディスクロージャー誌 2008 本編A

【参考サイト】

- 日本経済新聞社公式HP <http://rank.nikkei.co.jp/money/>
- インフォシーク・マネーHP <http://money.www.infoseek.co.jp/>
- 日経ストックリーグ公式HP <http://manabow.com/sl/info/index.html>
- 日刊工業新聞社公式HP <http://www.nikkan.co.jp/>
- 日経産業新聞公式HP <http://ss.nikkei.co.jp/ss/>
- 東京証券取引所公式HP <http://www.tse.or.jp/>
- 東証株式学習ゲーム公式HP <http://www.ssg.ne.jp/>
- 野村証券バーチャル株式投資倶楽部公式HP <http://www2.nomura.co.jp/>
- ユーレット <http://www.ullet.com/>
- ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/> セントレジャー城島高原パーク
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ公式HP <http://www.mufg.jp/csr/>
- 三井住友フィナンシャルグループ公式HP <http://www.smfg.co.jp/aboutus/>
- 野村ホールディングス公式HP <http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/>
- 新日本製鉄公式HP <http://www.nsc.co.jp/company/index.html>
- SUMCO 公式HP <http://www.sumcosi.com/corporate/index.html>
- 国際石油開発帝石公式HP <http://www.inpex.co.jp/company/index.html>
- 三井物産公式HP <http://www.mitsui.co.jp/company/index.html>
- 武田薬品工業公式HP <http://www.takeda.co.jp/about-takeda/>
- アステラス製薬公式HP <http://www.astellas.com/jp/corporate/>
- 日本たばこ産業公式HP <http://www.jti.co.jp/JTI/corporate.html>
- キリンホールディングス公式HP <http://www.kirinholdings.co.jp/company/>
- トレンドマイクロ公式HP <http://jp.trendmicro.com/jp/about/index.html>
- ソフトバンク公式HP <http://www.softbank.co.jp/corporate/index.html>
- キャノン公式HP <http://canon.jp/corp/index.html>
- パナソニック公式HP <http://www.panasonic.co.jp/company/>
- 日本電産公式HP <http://www.nidec.co.jp/corporate/index.html>
- 本田技研工業公式HP <http://www.honda.co.jp/corporate/>
- 日本郵船公式HP <http://www.nykline.co.jp/profile/index.htm>
- 日本通運公式HP <http://www.nittsu.co.jp/corporate/index.html>
- 任天堂公式HP <http://www.nintendo.co.jp/>